

○共栄学園短大生活学科 山田祐子 女子栄養大学(非)三善勝代
川鉄病院付属高等看護学院(非)小保方稔子 お茶の水女子大家政 鶴沢由美子

【目的・方法】第1報に同じ。ここでは、「セルフ・エンプロイド」女性と家族や周囲との人間関係に焦点をあてる。すなわち、仕事開始時点での家族や周囲の反応、それらの反応に対する本人の感想、家族関係の変化、家族との関係の将来設計について述べる。

【結果】①仕事開始時における反応の件数は、家族よりも周囲からのものが多かった。子供たちは自然に受け入れ、夫は協力的であるが、父母やキョウダイでは、計15件が資金援助などの具体的協力を行っており、また、周囲の人たちも顧客になったり手伝いをしていた。②家族や周囲からどのような反応を受けようと、対象者たちは仕事への意欲を減退させたりショックを受けたりはしていない。全体的に、そうした反応に対し、感謝などのプラス思考こそすれ、それらに左右されることはなかった。③関係の変化については、変化のない場合や肯定的変化が多く、否定的変化はごく少数にすぎなかった。④夫婦の将来設計について、「未定」の回答は2件のみで、各々主体的な内容の将来設計をたてていた。なお、「夫とはそれぞれ別のことをする」という回答が19件あった。子供に対する期待については、その将来について子供自身の意志を尊重していた。老親介護については、自分が係わることを前提とする回答が目立ち(19件)、サービス利用にも抵抗をもち、親族間などで適切な分担をし、合理的に進めていく対処の仕方を志向していた。